

学校全体の取り組み

学習規律	① 指名されてから発言させる。 ② 「はい」は一回または黙って挙手をさせる。 ③ 指名されたら「はい・立つ・です」 ④ みんなに聞こえる声の大きさを発言させる。(声のもののさしの活用) ⑤ 発言している人の方を向いて聞かせる。
持ち物について	① 4月に決めた物を持ってきているのかを観察、または点検する。そして、不要な物を持ってこさせない。 ② 机の横にたくさん物をかけさせない。 ③ 道具をわすれたときには担任に報告させる。
教室掲示について	① 教務に配布された資料に準ずる。
ノート・その他	① 日付を書かせる。 ④視覚的な効果を高めるためにICT機器を活用する。 ② 線を引くときは定規を使わせる。 ⑤授業の毎時間、書く活動を取り入れる。 ③ ノートの書き方を指導する。

評	説	明
A	十分に改善や工夫をした	
B	おおむね改善や工夫をした	
C	改善や工夫の努力が足りなかった	
D	改善や工夫をしなかった	

教科名	児童の実態	指導方法の改善と工夫	評価		
			2学期	3学期	
国語	思考力・判断力・表現力	<p>【音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢や口の開け方を意識し、音読できる児童が多い。 繰り返し音読に取り組むことで、つかえる回数も減り、文章の内容理解にもつながっている。 <p>【ノート指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> マスクを使って、教師の指示どおりに式や答えを書くことができる。 線を引き時は、定規を使っている。 <p>【書き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を手本どおりになぞることや、正確な文字を書くのが苦手な児童もいる。 「、」「。」を付け忘れたり、「は、を、へ」等の助詞の使い方の習得が、不十分な児童がいる。 	<p>【音読】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読の際には、正しい姿勢や言葉の読み方を確認する。 短く楽しくリズムに合わせて読み合うことができる、音読教材も使う。 家庭の協力を得ながら、繰り返し音読できるようにする。 <p>【ノート指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートに合ったマス黒板を使う。 書く時間を設定し、丁寧に書くことを意識させる。 <p>【書き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、漢字の書く練習を繰り返し行い、習熟させる。 誤字脱字があれば、その都度指導する。 正しい書き順やとめ、はね、はらいも意識させる。 視写をして、文を書くことに慣れさせる。 説明を交えて、正しい鉛筆をもち方身に付けさせる。 	B	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢で話を聞ける時とそうでない時がある。 相手の目を見ながら、話の内容を的確につかんで、最後まで話を聞ける児童がいる。 <p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼名に対して、しっかり返事できる児童が多い。 返事の後、椅子を入れて立ち、語尾に「です。」をつけられるようになっていく。 自分の考えの理由を話すため、「どうしてか」というと、～だからです。」といった話型を使えるようになってきた。 	<p>【聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話を聞く時の姿勢を絵で示し、繰り返し指導する。 目まで見て話が聞けている児童をお手本とする。 <p>【話すこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単語での表現で終わらないよう、話型を使うことを徹底させる。 話す時のルールを絵で示す。 ペアやグループで話す時間を設定し、話しやすい雰囲気を作る。 	B	B
	思考力・判断力・表現力	<p>【計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10までのたしざん、ひきざんの計算に自信をもち、意欲的に取り組む児童が多い。 空いた時間があると、自分で問題を作り、取り組む児童もいる。 <p>【文章題】</p> <ul style="list-style-type: none"> たしざん、ひきざんのことばの違いを理解し、問題をつくることができる。 文章題を読み、内容を理解し、立式するの苦手な児童もいる。 <p>【ノート指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> マスクを使って、教師の指示どおりに式や答えを書くことができる。 線を引き時は、定規を使っている。 	<p>【計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> 速さよりも丁寧に計算することを意識させる。 課題がはやく終わった場合には、自分で問題を作り解いたり、友達と問題を出し合ったりさせる。 苦手な児童には、具体物を使って、指導する。 <p>【文章題】</p> <ul style="list-style-type: none"> さまざまな文章に触れさせ、キーワードを見つける練習をさせる。 絵や写真を使って、文章を視覚化し、理解しやすいようにする。 <p>【ノート指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノートに合ったマス黒板を使う。 書く時間を設定し、丁寧に書くことを意識させる。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を発表しようとする意欲が高いが、そうでない児童との差がある。 	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現が苦手な児童には定型文を使うことで、話すことに慣れさせ、自信をもたせる。 上手な発表を賞賛し、表現の良さを全体に伝える。 ペアやグループで発表する時間を設定し、全員が発表できるようにする。 	B	B

生活	思考力・判断力・表現力	<p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの生長に興味をもち、世話や観察を行っている。 <p>【観察カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉や茎、花やつるなど、観察の視点を示し、観察しているが、絵に描くことが難しい子もいる。 ・見るだけでなく、さわったり、においをかいだりして感じたことをカードに書いている。 	<p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉から、観察の際の視点を増やしていく。 <p>【観察カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察のポイントを示す。 ・互いのカードをみる機会を作り、良い所はまねさせる。 	B	B
	言語活動	<p>【かかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検、遠足では、2年生の話聞きながら、仲よく活動することができた。 	<p>【かかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人の関わりの中で、自分達の生活が支えられていることを理解させる。 	B	B
音楽	思考力・判断力・表現力	<p>【関心 意欲 態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌うことや鍵盤を演奏することに興味をもって活動している。 <p>【表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に大きな声で歌うことはできる。 <p>【表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの演奏では、曲のリズムに合わせて、楽しんで指を動かしている。 	<p>【関心 意欲 態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の集中力を保つため、一つの活動があまり長くならないようにする。 <p>【表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲のイメージを考えて、楽しく歌うようにリズムを感じる意識を高める。 <p>【表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定を実施し、合格シールを使って、上達したことを実感させる。 	B	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴を感覚的にとらえることはできるが、それを言葉で、相手に分かるように表現するのが難しい。 	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちに合った言葉を選べるようにワークシートを工夫する。 	A	A
図工	思考力・判断力・表現力	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心、意欲が高い児童が多い。 <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想は個人差が大きく、発想を絵や形に表すことができる児童もいれば、一方で自分からつくりたいものを発想できなくて、手が止まっている児童もいる。 <p>【創造的技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の進度に差が見られるので、遅れてしまう児童への声かけが必要である。個人差が大きい。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心がもてる題材を工夫する。 <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い発想や、高い技能の作品をつくる過程で紹介する。 <p>【創造的技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を支援し、支援が必要な児童には、個別に指導する。 ・道具や用具の使い方を確認して、ルールを徹底する。 	A	A
	言語活動	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の良いところに気付く児童もいるが、自分や友達の良さに気付きにくい児童もいる。 	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の時間を十分に取り、自分や友達の良さに気付かせる。 	A	A
体育	思考力・判断力・表現力	<p>【走る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールに向かってまっすぐに走ることができるが、直前にスピードをゆるめてしまう児童もいる。 ・鬼あそびでは、ルールを理解し、鬼につかまらないように動き方や走り方を考え、ゴールまでいくことができる。 <p>【固定施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登り棒やうんていなどが足りず、自分の体を支えられない児童がいる。 ・鉄棒では、できる技の種類に限りがある。 <p>【ボール運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、楽しく遊ぶことができる。 ・ボールを投げる際、体と腕の動きがまだ連動できない児童もいる。 	<p>【走る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなコースを設定し、自分で走り方を工夫できるようにする。 ・鬼につかまらないようにするために、どんな動き方が有効か考えさせ、共有させる。 <p>【固定施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館のろくぼくでは、マットをひき、安全にできるようにしたり、繰り返しスモールステップで練習し成功体験を積み重ねる。 <p>【ボール運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に仲良く運動することを意識させる。 ・ボールの投げ方を絵を使って示す。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【かかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にアドバイスを言える子とそうでない子の差がある。 ・ゲームをする時、勝敗にこだわるあまり、友達に強い態度で接してしまうこともある。 	<p>【かかわり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の失敗を責めず、アドバイスできる雰囲気作りをする。 ・勝敗にこだわりすぎず、良いところを認める。 	A	A
道徳	思考力・判断力・表現力	<p>【生命尊重】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の大切さについて、理解はしている。 <p>【思いやり 親切】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達がいると、優しくかかわることができ、手伝ってもらえたことに対して、感謝を示すこともできる。 ・「くん、さん」をつけて相手を呼んでいる。 ・ふわふわ言葉とちくちく言葉の違いと、互いに気持ちの良くなる言葉を知っているが、言動が伴わない児童もいる。 <p>【善悪の判断 勇気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断はできるが、友達の行動につられてしまうことがある。 ・自分の行動を素直に認められない児童もいる。 	<p>【生命尊重】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に生命の大切さを考える機会を設ける。 ・自分一人で生きているだけでなく、家族や周りの人に支えられていることに気付かせる。 <p>【思いやり 親切】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ、ちくちく言葉について振り返る時間を設定したり、友達から言われて嬉しかった言葉を発表し、共有させる。 ・道徳の時間に限らず、良い行いを取り上げ、褒めることで、クラスの雰囲気をも高める。 <p>【善悪の判断 勇気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心のブレーキというキーワードから、善悪の判断について考えさせる機会を設ける。 ・必要に応じ、積極的に家庭との連携を図り、協力を求め、支援していく。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを相手に伝えることができるが、苦手な児童もいる。 	<p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちに合った言葉を選べるようにワークシートを工夫する。 	B	B